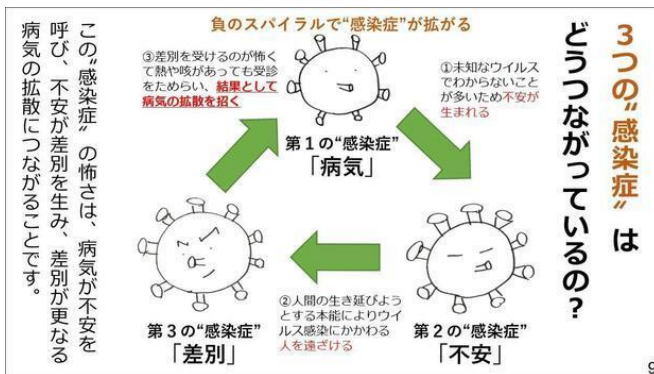


「ウイルスの次にやってくるもの」日本赤十字社の動画から



新型コロナウイルスの感染が拡大する中、感染者や医療従事者への偏見や差別が問題となっています。

4月21日、日本赤十字社が「人と人が傷つけあう状況はウイルスよりも恐ろしい」と警鐘を鳴らす動画（絵本アニメーション）を公開し、YouTubeで130万回以上再生（4月27日現在）され話題となっています。

「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！

～負のスパイラルを断ち切るために～

http://www.jrc.or.jp/activity/youth/news/200416_006157.htm

また、動画をWeb上にあげると同時に、「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」を作成し、

教材として活用できるようにしています。（※上記のURLから一括ダウンロードできます）。

これらは、日本赤十字社の青少年赤十字活動の指導者用解説として作成されたものですが、全国の小・中・高等学校等で「子どもたちの心と体を守るためにご活用ください！」とされています。

絵本アニメーションでは、男性が手を洗うシーンから始まり、「きちんと手を洗うだけで感染する確率はぐんと下がる」とし、「でも心の中にひそんでいて、流れていかないものがある」として、人々の「偏見や差別」につなげていっています。

「ウイルスが広まったのはあいつのせいだ！」

「世界がこうなったのはあいつのせいだ！」

人々が言い争ううちにウイルスはどんどん広がっていき、新型コロナウイルスから生じる「恐怖」は「ウイルスよりも恐ろしいもの」として描いています。このような状況が世界のいたる所でみられていることも事実です。

そして、「なぜ、嫌悪・偏見・差別が生まれるのか」

分かりやすく解説してくれています。「知らないこと」「不安」などが偏見・差別を助長していきます。また、恐ろしいのは「ウイルス」であるのですが、その敵（ウイルス）がすり替わり、本当の敵（本質）が「見えなくなる」または「見なくなる」状態が、偏見・差別につながっていると言えます。

日本赤十字社は、全国14,000校の小・中・高等学校の加盟校と、340万人の青少年赤十字メンバー及び、青少年赤十字活動の指導者の方々（各校の先生方）に対して、「青少年赤十字メンバーのみなさん一人一人が、今何ができるのかを考え、感染拡大を防ぐためできることを実行していきましょう。」と、結んでいます。

また、絵本アニメーションを制作した日本赤十字社の広報担当者は、取材の中で、

「人が団結し、励ましあい、応援し合うことにより、心の中にある『恐怖』を乗り越えることができる」と語っておられます。（「FNN・PRIM」2020/5/7より <http://www.fnn.jp/articies/-/36723>）

この動画と教材は、誰でも活用できるということですので、人権・同和教育の学習教材や啓発に活用してみてください。

